

計画小委員会活動報告 —都市再生と地下空間歩行者ネットワーク の整備動向について—

THE ANNUAL REPORT ON THE PLANNING SUBCOMMITTEE, COMMITTEE ON UNDERGROUND SPACE RESEARCH —RECENT TREND ON URBAN RENOVATION PROJECTS AND UNDERGROUND PEDESTRIAN NETWORK—

築瀬 範彦^{1*}・村田 哲哉²・伊藤 均³

Norihiko YANASE^{1*}, Tetsuya MURATA², Hitoshi ITO³

Aim of this report is to share data on planning and development of underground spatial use in Tokyo urban center and to point out its present value and issue. Through analysis on recent projects redeveloped for urban renovation policy, the author review trend of planning deregulation, sense of values in administration, developers and building owners that give incentive of underground development for pedestrian network in view of urban planning, in addition to consider the future direction of underground use that includes three-dimensional space management, environment, security, aging and rebuilding.

Key Words : *underground space, land use, pedestrian network, Urban renovation, new projects, Tokyo metropolitan area*

1. 2000 年頃までの地下街及び地下空間ネットワーク形成の経緯と整備の考え方

(1) 日本の地下街及び地下空間ネットワークの課題

20 世紀の日本の大都市の「地下街⁽¹⁾」と周辺の地下通路を含む地下空間のネットワーク性に対する評価は，諸外国の地下空間と比べて余り高いものとは言えなかった。しかし，近年整備された札幌駅前，丸の内駅周辺，渋谷駅周辺等の大規模な「地下空間⁽²⁾」は，従来の地下街とは面目を一新し，日本のインフラ整備技術の高さを示しているように見える。こうした変化をもたらしたのは，行政，鉄道事業者，地下街管理者，民間デベロッパー等，関係者の努力の結果ではあるが，本稿では，その背景にある社会経済的動向，制度の改善，計画設計思想の変化，施工技術面の工夫等を概括することを目的としている。

一般に，欧米の大都市の地下街は，建物の地階が道路下の通路に面するか，道路下の通路で結ばれる，いわゆる日本の「準地下街⁽³⁾」に相当する構造を持ち，さらにビルの地階を連結して歩行者のネットワーク性を確保している。一方，従来の日本の地下街は，駅前広場や幹線道路といった公共施設の地下空間を通路，店舗等として面的に活用している^(1)・2)。日本の地下街は鉄道駅という交通結節点に位置し，集客力という経済性に優れ，公共交通機関の乗降・乗り換えを行う際に天候に左右されない歩行が可能である反面，地下鉄網の整備に追従して整備が進んだことから，周辺建物や通路との物理的な接続が先行し，いわば迷路化した連絡通路や階段が多くなるというネットワーク性やバリアフリー性等における課題が指摘されていた⁽²⁾。欧米と日本の地下空間のネットワーク性を比較した金田一等による研究⁽²⁾では，その相違は日本の地下街が公共地下通路と建築物の地階

キーワード：地下空間，土地利用，歩行者ネットワーク，都市再生，東京首都圏

¹正会員 足利工業大学教授 工学部都市環境工学科 Professor, Ashikaga Institute of Technology, (E-mail: yanase.norihiko@v90.ashitech.ac.jp)

²正会員 株式会社ドーコン Docon Co., Ltd

³正会員 八千代エンジニアリング株式会社 Yachiyo Engineering Co., Ltd